



特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
 2018年度 年次報告書

2019年3月発行
 発行 特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
 〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
 TEL: 03-5334-5350(代表) FAX: 03-5334-5359
 HP: www.worldvision.jp
 郵便振替 00130-6-254059

当団体は認定NPO法人です。皆さまからのご寄付は寄付金控除等の対象となり、税制優遇措置を受けられます。
 本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

ワールド・ビジョン・ジャパン 2018年度

年次報告書

World Vision Japan Annual Report 2018
 2017年10月 - 2018年9月

ありがとう、30年。 つながろう、これからも。



ごあいさつ

日ごろより、ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)への温かいご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。心からの感謝とともに、2018年度(2017年10月～2018年9月)の年次報告書をお届けいたします。

2018年度はWVJが設立30周年を迎え、皆さまから頂戴した多くの恵みとお力添えを再認識することができました。30年にわたり、困難を強いられる子どもたちや人々へ、皆さまとともに希望を届けられたことは、WVJの誇りです。

しかしながら世界では、貧困、紛争、災害で苦しむ多くの子どもたちや人々が絶えません。世界の難民・国内避難民の数は第2次世界大戦後最多となり、記録的な自然災害が日本を含めた世界各地で頻発しています。日本でも、子どもを取り巻く貧困や虐待等の問題が大きく報道されています。問題の大きさに圧倒されることもありますが、WV創設者であるボブ・ピアスの言葉「すべての人に“何もかも”はできなくとも、誰かに“何か”はきっとできる」を胸に、新たな気持ちで挑戦を続けてまいります。今後とも、皆さまの尊いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長

榊原 寛



2018年度はワールド・ビジョン・ジャパン設立30周年の節目の年でした。これまで支えてくださった支援者の皆さま、元スタッフ、NGOの仲間、企業・政府・国際機関のパートナーの皆さまと一緒に、様々な機会を通じて30年を振り返り、感謝をお伝えできたことを嬉しく思います。

しかし私たちが何より驚いたのは、皆さまがその支援の輪をさらに広げてくださったことです。本年度は、経常収益が50億円を超え、48,712人のチャイルド・スポンサーをはじめとした多くの方々とともに、世界の子どもたちにより大きな支援を届けることができました。日本政府や国際機関の補助金により、深刻化する難民の子どもたちへの支援も行っています。

世界の紛争は終結せず、報道では目を覆いたくなるような子どもの様子が映し出されます。難しい状況ですが、こういう時だからこそ、次世代を担う子どもたちや若者への励ましを止めてはならないと思います。次の10年も、子どもたちや若者の将来がより良い方に向かっていくよう、成果が出る事業を行ってまいります。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
事務局長

木内真理子



2018年度 年次報告書 目次

数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン …	03	企業・団体との連携 ……	19
2018年度 活動マップ ……	05	皆さまとともに ……	21
チャイルド・スポンサーシップのしくみ ……	07	設立30周年を迎えました! ……	23
チャイルド・スポンサーシップによる事業…	09	2018年度 会計報告 ……	24
募金や他団体との連携による事業 ……	13	2018年度 支援事業一覧 ……	27
国内支援 ……	17	ワールド・ビジョンについて ……	29
アドボカシー ……	18		

基本理念

私たちはキリスト教精神に基づいて活動します
私たちは貧しい人々のために献身します
私たちはすべての人を価値あるものとします
私たちは仕えるものです
私たちはパートナーです
私たちはすぐに対応します

ビジョン・ステートメント

私たちのビジョンは、
すべての子どもに豊かないのちを
私たちの祈りは、
すべての人の心にこのビジョンを実現する意志を
Our Vision for every child, life in all its fullness
Our Prayer for every heart, the will to make it so

ミッション・ステートメント

ワールド・ビジョンはキリスト教精神に基づく
国際的なパートナーであり、イエス・キリストにならい、
貧しく抑圧された人々とともに働き、人々の変革と、
正義を追求し、平和な社会の実現を目指します。
私たちは、このミッション実現のために、
総合的かつ全体的な方法で、右の動きを行います。

- 変革をもたらす開発
- 緊急人道支援
- 正義の追求
- 教会とのパートナーシップ
- 情報提供
- スタッフの生活、行動等を通じたミッション・ステートメントの実践

数字で見る

ワールド・ビジョン・ジャパン

ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動は、「開発援助(チャイルド・スポンサーシップ等)」、「緊急人道支援」、「アドボカシー(市民社会や政府への働きかけ)」の3本柱です。ここでは、世界で活動するWVJの2018年度の活動概要を、数字でご紹介します。



活動国・事業数

総事業数

29カ国で135事業※

開発援助 事業数

24カ国で86事業

うち、チャイルド・スポンサーシップ事業数
21カ国で46事業

緊急人道支援 事業数

11カ国で49事業※

※: 東日本大震災緊急復興支援事業・西日本豪雨緊急支援事業・北海道地震緊急支援事業含む

活動を数字 とりまく数字

チャイルド・スポンサー数
48,712人

チャイルド数
57,118人

チャイルド・スポンサー
以外の募金者数
12,402人

チャイルドから
チャイルド・スポンサーへの手紙
約44,000通

補助金等による支援
9団体55件

イベント開催回数
21回

連携企業・団体数
2,891社・団体

職員数
(嘱託・アルバイト3人を含む) 82人

海外派遣・駐在
スタッフ数 10人

ボランティア数 364人

資金の集め方

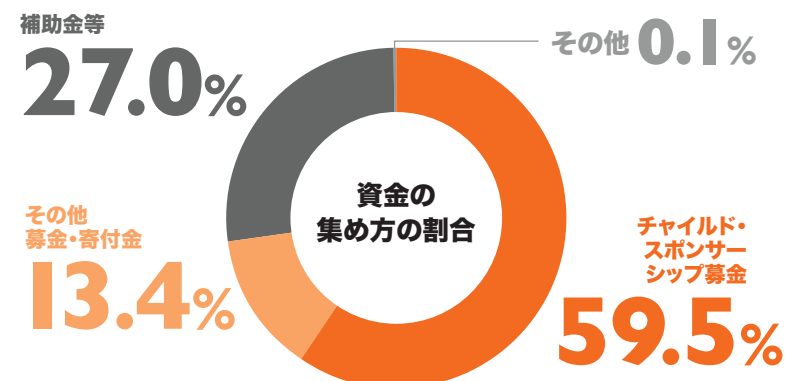
2018年度の経常収益

詳しい会計報告はP24をご覧ください

52億 3,462万円

資金の集め方とその割合

WVJに寄せられる資金の約6割は、チャイルド・スポンサーシップによるものです。その他、水・食糧のための募金や難民支援募金、国際機関や政府等からの補助金によって活動しています。



資金の使い方

2018年度の経常費用

詳しい会計報告はP24をご覧ください

49億 9,967万円

資金の使い道とその割合

団体の運営・管理のため

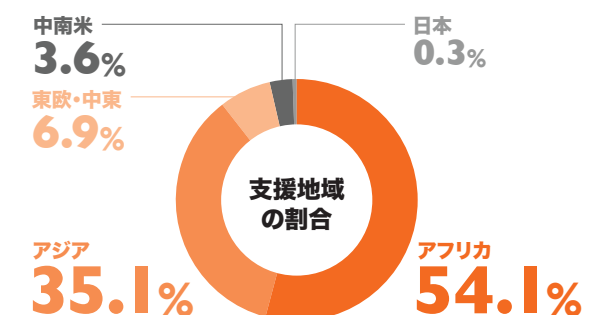
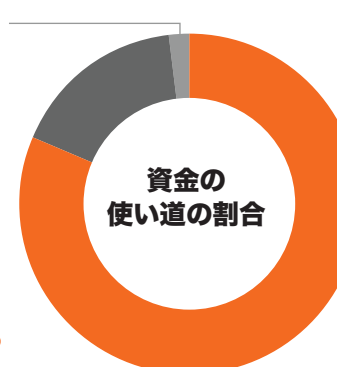
1.9%

広報活動のため

16.7%

現地事業活動のため

81.4%



ワールド・ビジョン・ジャパンは 世界29カ国で135の事業を 実施しました

すべては子どもたちのために。ワールド・ビジョン・ジャパンは、チャイルド・スポンサーシップ等による開発援助、緊急人道支援、アドボカシーを活動の3本柱として、2018年度は世界29カ国で135の事業を実施しました。

多くの日本人スタッフが
世界各地で支援活動に
従事しています(2018年度実績)

長期派遣

渡邊 裕子	ヨルダン	2015/3～
古田 ちあき	エチオピア	2015/9～2018/10
望月 亮一郎	ルワンダ	2015/10～2018/10
大沢 歩	エチオピア	2016/3～
木戸 梨紗	エチオピア	2016/5～2018/3
加藤 奈保美	ネパール	2017/1～
松岡 拓也	カンボジア	2017/2～
三浦 曜	バングラデシュ	2017/4～2018/3
西島 恵	バングラデシュ	2018/3～
大井 光一	ウガンダ	2018/4～

他団体出向

渡邊 いずみ	特定非営利活動法人ビーンズふくしま	2016/4～2018/3
--------	-------------------	---------------

アフリカ

開発
援助



妊産婦と新生児の健康改善事業を行う保健センターのスタッフと大沢スタッフ(エチオピア)

開発
援助



支援した牛からとれた牛乳を手にする今西スタッフと地域の子どもたち(マラウイのクーユADP)

開発
援助



農家の収入向上支援を通じて、トウモロコシを生産・販売する家族と望月スタッフ(ルワンダ)

緊急
人道支援



南スーダン難民が暮らすビディビディ難民居住地にて。給食支援を喜ぶ子どもたちと大井スタッフ(ウガンダ)

緊急
人道支援



教育支援を行っている南スーダン難民の子どもたちと千田スタッフ(エチオピア)

東欧・中東

緊急
人道支援



日本全国から贈られた手編み衣料を身に着けて喜ぶ子どもたち(アフガニスタン)

緊急
人道支援



紛争によるストレスを軽減するためのレクリエーション活動(イラク)

アジア

緊急
人道支援



ミャンマーからの避難民に物資を届けるため、現地スタッフと打合せをする三浦スタッフ(バングラデシュ)

開発
援助



栄養のある食事の大切さを学んでいるお母さんたち(カンボジアのボレイ・チュルサルADP)

開発
援助



学校や地域の防災力向上を目指した事業を行うラティ郡の子どもたちと加藤スタッフ(ネパール)

開発
援助



新しく建設された小学校で学ぶ子どもたち(ミャンマーのタバウンADP)

開発
援助



支援地域の子どもたちと池内スタッフ(ラオス)

中南米

開発
援助



芸術や文化に触れるための施設で笛の演奏を体験する子どもたち(エルサルバドルのサンアグスティンADP)

日本国内

緊急
人道支援



座談会を通じて、西日本豪雨で被災した子どもや保護者の心のケアを行う高橋スタッフ(広島県)

アドボ
カシー



JNNE(教育協力NGOネットワーク)のメンバーとして「国会議員のための世界一大きな授業」を開催

地域ごとのWVJ活動国リスト

アフリカ

ウガンダ	エチオピア
ケニア	コンゴ民主共和国
スーダン	スワジランド(エスワティニ)
ソマリア	タンザニア
マラウイ	南スーダン
ルワンダ	

東欧・中東

アフガニスタン
イラク
ヨルダン

アジア

インド	インドネシア
スリランカ	タイ
バングラデシュ	フィリピン
ミャンマー	モンゴル
日本	

中南米

カンボジア	エクアドル
ネパール	エルサルバドル
ベトナム	
ラオス	

※ADP(Area Development Program)と書かれているのは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムの事業です。詳しくはP7-12参照

開発
援助

地域とともに歩みながら、子どもの健やかな成長を実現していくプログラム

チャイルド・スポンサーシップによる支援は、一人の子どもだけを対象にお金や物を提供する支援ではありません。そこに住む子どもたちが健やかに成長できる持続可能な環境を整えていけるよう、支援地域の人々とともに水衛生、保健、栄養、教育、生計向上等に取り組みます。活動の成果を地域の人々自身が将来にわたって維持し、発展させるために、人材や住民組織の育成にも力を入れています。



栄養

発育を支えます

子どもたちの栄養状態を定期的にモニタリングし、保護者を対象に栄養改善につながる啓発・トレーニングを行います。



野菜を収穫した親子。子どもの栄養と保健プログラムに母親たちが参加し、栄養価の高い食事の作り方を学ぶことにより、5歳未満の子どもの低体重が改善されています（インドのカンドゥールADP）



保健

病気から守ります

地域で保健サービスを提供できる人材を育成します。地域の医療機関と連携し、マラリアや下痢予防、妊産婦ケア等の啓発・トレーニングを行います。



予防接種をする保健センターのスタッフ。活動が進むにつれて、保健センターで受けられるサービスの理解が深まり、利用者が目に見えて増加しました（カンボジアのトム・プロADP）

チャイルド・スポンサーシップの進め方

準備期

地域住民や行政関係者との関係構築、支援ニーズの調査、事業計画策定等を行います。

第1期～第3期

事業計画に基づき、支援地域のチャイルドの成長を見守りながら、水衛生、保健、栄養、教育、生計向上等の活動を行います。また、これらの活動の将来の担い手として、人材・住民組織の育成にも取り組みます。

支援卒業準備期

これまでに育成した人材・住民組織が、いよいよ自分たちで活動を継続できるよう準備します。

卒業



生計向上

家族の収入を増やします

子どもたちの家族がより安定した収入を得られるように、畜産・農業の支援、職業訓練、貯蓄グループ・生産者グループの活動支援を行います。



農家のグループに、作物が良く育つよう改良した種子や肥料等を提供し、生産性を高める支援を実施しています（ルワンダのキラムルジADP）



教育

学ぶ環境を整えます

地域のリーダーや保護者を対象に、教育の重要性を伝え、子どもたちが教育を受けられるよう働きかけます。また、教育施設や備品を整え、教師へのトレーニングも行います。



授業についていけない子どもたちを対象に補習授業を実施。グループ学習や参加型学習を取り入れ、読書の楽しさを知る子どもたちが増えています（フィリピンのサマルADP）



水衛生

安全な水が飲めるようになります

子どもたちの病気を防ぐために、井戸や貯水タンクを設置するほか、トイレの整備を行います。



学校で実施した水衛生キャンペーンによって設置された手洗い場を使う子どもたち。屋外排泄もなくなりました（エチオピアのデラADP）

※ADP=Area Development Program(チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラム)

チャイルド・スポンサーになると



海の向こうのチャイルドとの目に見えない絆 手紙によるチャイルドとの交流

チャイルド・スポンサーになると、支援地域に住むチャイルドからの成長報告やグリーティングカード(年末年始の挨拶)が届くほか、支援地域に住むチャイルドと手紙のやり取りができます。2018年度は約44,000通の手紙がチャイルド・スポンサーに届けられました。

チャイルド・スポンサーから届いた誕生日カードを手に喜ぶチャイルド(カンボジア)



チャイルドや家族と交流し、楽しい時間を過ごしました(ウガンダ)

チャイルドに会い、支援の成果を実感する ツアーによる支援地域訪問

3月にカンボジア、7月にウガンダへのツアーを開催し、計46人のチャイルド・スポンサーが参加しました。「チャイルドに会えたことで、心が温かくなったように思いました」「子どもも大人も、夢を語る表情がとても輝いていて素敵でした」(訪問者アンケートより)



チャイルドと支援地域をより身近に 動画による報告

チャイルドや支援地域の様子を、動画でチャイルド・スポンサーに届けています。2018年度は、15,500人のチャイルドの動画をメールで届けました。また、ホームページの「マイ ワールド・ビジョン」では、最新動画がいつでも見られるようになりました。

「写真では伝わらない愛くるしさが伝わって、チャイルドを身近に感じました」との感想が寄せられました

準備期

第1期

土台やしくみを作ります

準備

第1期

第2期

第3期

卒業準備

主な活動内容

- チャイルドの登録 ●住民組織づくり
- 地域住民や行政関係者との関係構築
- 保健衛生・栄養・教育等の啓発活動や基盤整備
- 生計向上のための研修や機材・資金の提供 等

該当の地域

■アジア ダバック(ベトナム)

地域の人々と信頼関係を築きながら



(イメージ)

チャイルド・スポンサーシップの特徴

人と人がつながり、さらなる発展につながります

チャイルド・スポンサーシップの支援が何よりユニークなのは、人と人とのつながりが支援の基本となっていることです。チャイルド・スポンサーとチャイルドの海を越えた絆、そして、コミュニティがチャイルドとその家族を支えられるように支援していくというプログラムの在り方のすべてに「つながり」があります。

チャイルド・スポンサーは自分のチャイルドの成長とともに、チャイルドが育つコミュニティでの支援活動の成果を見守ることができます。支援は、家族やコミュニティの中で「子どもを大切にする」という意識変革があって初めて成果につながります。チャイルドとのつながりを通して、チャイルド・スポンサーの皆さまの生活や人生にも変化が生まれていませんか？

人と人とのつながりを通じて人が変革され、そのことが支援活動の成果の継続性を高め、さらなる発展につながっていく、これがチャイルド・スポンサーシップの神髄なのです。

支援事業部 部長
今西浩明

第2期

知識・技術を身につける活動をしします

準備

第1期

第2期

第3期

卒業準備

主な活動内容

- 活動の実施
- 住民組織づくりや育成
- 第1期での活動のモニタリング
- 地域レベルのアドボカシー（行政への働きかけ） 等

該当の地域

- アジア カンドゥクール、キラユ、サイダベット、ブドウコッタイ(インド)、トウナ(インドネシア)、トモ・ブオ、ボレイ・チュルサル(カンボジア)、リディマリヤッタ(スリランカ)、西ドティ(ネパール)、サマール、レイテ(フィリピン)、チャンエン、トアンザオ、ムオンチャ(ベトナム)
- アフリカ キルヤンガ(ウガンダ)、カンボブ、トヨタ(コンゴ民主共和国)、ゲゲ、シェウラ(スワジランド(エスワティニ))、ムキンガ(タンザニア)、キラムルジ、グウィザ(ルワンダ)
- 中南米 コルタ、ブンガラ(エクアドル)、サンアグスティン、ティエラ・ヌエバ(エルサルバドル)

地域に根差した活動が本格化



栄養

家庭から地域へ広がる栄養改善

地域で入手可能な食材を使い、栄養価の高い料理が作れるよう指導する調理実習を行っています。地域の母親や保護者を対象にしたこの活動では、家庭を守る母親や保護者が「栄養」に関する知識を深め、家庭から地域全体に波及し栄養状態の改善に結びつけることを目的としています。今年度は8つの村で実施し、指導を受けた母親・保護者の子どもで、5歳未満児60人のうち、32人の体重が増加しました。(ベトナムのムオンチャADP)



教育

学校に通うための準備が始まりました

初等教育の質を向上させる取り組みの第一歩として、6歳の子どもたちにリュックサックに詰めた就学準備セットを支援しました。子どもたちは友達とリュックサックの中身を見せ合い、学校に通うことへの期待を膨らませながら、その日を楽しみに待っています。(エクアドルのコルタADP)



水衛生

手を洗うことの大切さを実感しています

子どもたちが通う学校に井戸と手洗い場を設置しました。以前は水汲みのために数キロも歩く必要がありましたが、家の近くにある学校で、安全で清潔な水を得られるようになりました。今では衛生面が改善され、自らを清潔に保つために、トイレを使用した後や食事の前に手洗いを習慣とする子どもが増えました。(スワジランド(エスワティニ)のゲゲADP)

第3期 評価・見直しをしつつ活動を進めます

準備 第1期 第2期 **第3期** 卒業準備

主な活動内容

- 第2期での活動の継続
- 地方行政や現地NGO等との連携強化
- さらなる住民参加型活動の強化 等

該当の地域

- アジア** タブラヤ、トゥンワ(タイ)、ビルゴンジ、ピロル、フルバリア(バングラデシュ)、タバウン(ミャンマー)、ハイラスト、バヤン・ウルギー(モンゴル)
- アフリカ** ゴンダール・ズリア、テラ(エチオピア)、イララマタク、キアムボゴコ(ケニア)、ゴロフ、ムゲラ(タンザニア)、クーユ(マラウイ)

支援の成果と課題を見極めて活動を継続



\$ 生計向上

収入が向上し、生活が安定しています

地域の人々が安定した収入を得られるよう活動しました。農作物の栽培方法についての研修や貯蓄グループの活動を通して、地域住民、特に貧しい女性たちの生計手段が確立されつつあります。以前より農作物の収穫量が増えたこと、的確に貯蓄や投資ができるようになったことで、安定した家計を維持できるようになりました。(タンザニアのムゲラADP)



+ 保健

命を守るための知識、情報、手段を学びます

支援地域に住む5歳未満児の母親や保護者、妊産婦を対象に、保健と栄養に関する啓発活動を行いました。医療機関で受けられる産前・産後検診等のサービスや、乳幼児の食事と栄養、子どもの病気、家庭での衛生習慣について、イラストを多用した教材で説明し、保健・栄養状態の改善を目指します。家族が、子どもを病気から守り健康を保つことができるよう、知識や情報、必要な手段を手にする環境の整備を進めています。(バングラデシュのピロルADP)



👶 児童保護

子どもへの暴力をなくすための取り組み

子どもたちが虐待や暴力を受けることなく自尊心を持って生きていけるよう、保護者や教員向けの研修を実施し、行動や意識を変える啓発に努めました。その後、受講した教員等によってユースクラブ活動が各校に定着。15歳の女の子は「ユースクラブのプログラムを通じて自信が付き、自分の将来に希望を持てるようになりました」と話しています。(モンゴルのハイラストADP)

支援卒業 準備期

支援の終了を意識し、持続性のある活動を進めます

準備 第1期 第2期 第3期 **卒業準備**

主な活動内容

- これまでに育成した人材・住民組織が、支援終了後も自分たちで活動を継続できるよう準備

該当の地域

- アジア** ポニャー・ルウ(カンボジア)、カルマカンダ(バングラデシュ)
- アフリカ** ナラウェヨ・キシータ(ウガンダ)

自分たちで活動を継続できる自信と希望を持てるように



\$ 生計向上

生活の質が向上しつつあります

支援開始当初から生産者グループに参加した農家は、研修等を重ね栽培技術も向上。農作物の生産量を増やし、収入の向上につながっています。また、地域の手本となるモデル農家を育てるべく能力開発を集中的に実施し、そこから他の農家に技術や知識が徐々に広まっていく形でコミュニティ全体が底上げされるように取り組みました。その結果、家族が生活するうえで必要な食料や安定した収入を得ることができ、住環境を整備する等、生活面での改善も進んでいます。(ウガンダのナラウェヨ・キシータADP)



+ 保健

地域ぐるみで子どもたちを守ります

地域の保健センターや村落保健支援ボランティア、母親支援グループが協力し、母乳育児や離乳食の大切さを両親や保護者に伝えています。また、自主的に子どもたちの体重測定を行い、その成長を定期的にモニタリングする等、栄養不良児の早期発見とその対策に地域ぐるみで取り組んでいます。(カンボジアのポニャー・ルウADP)

支援卒業報告 ベトナムのバンエンADPより

子どもが夢を持てる環境づくりへ

2018年9月、ベトナムのバンエンADPは支援の卒業を迎えました。山岳地域に位置するバンエンは貧困に起因する問題を多く抱えていましたが、支援により、小・中学校の就学率の向上や、栄養不良の子どもの減少等の成果が得られました。また、農業技術や販売方法等の研修では、家族の収入の安定と向上をもたらし、現地政府が設定する貧困ラインを下回る家庭が33%(2005年)から9%(2016年)に減少しました。



現在、大学で勉強に励む元チャイルドのクックさん(19歳)

スポンサーの方の励ましで、教師になる夢を持ってました!

募金や他団体との連携による事業

チャイルド・スポンサーシップによる活動に加えて、皆さまから紛争・災害の中にある人々や子どもたちに迅速な支援を届け

の募金や日本政府からの補助金、他団体との連携による事業を実施しています。

開発
援助

母子保健

事業実施国 エチオピア、南スーダン、カンボジア

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)／国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／南スーダン保健合同基金

皆さまからの募金額

■児童保護募金	18,948,123円
■危機にある子どもたちのための募金	15,008,566円
■プロジェクト・サポーター	54,814,000円 (P16の難民支援分含む)
■誕生日記念募金	27,995,116円

—カンボジアからの報告—

タケオ州における母子健康改善事業

支援の背景

妊産婦・幼児の死亡率が高く栄養不良児も多数

カンボジアは内戦終結後、安定的な経済発展、貧困削減を達成してきています。しかし、依然として妊産婦や5歳未満児の死亡率はASEAN諸国の中でも特に高く、母子保健サービスへのアクセスや質の改善が求められています。支援地域のタケオ州では、5歳未満児のうち22.7%が低体重児。栄養不良改善は国を挙げて取り組む課題となっています。



40カ月で体重が7.9kgしかない重度栄養不良の女の子



栄養不良の予防・改善活動の一環で実施した調理実習

安全に出産を終えた母親と新生児

母子を取り巻く過酷な環境を改善

活動の成果

母子保健サービスの質が大幅に向上しました

3カ年事業の2年目として、引き続き、保健センター職員を対象とした産前・産後ケア、新生児蘇生法、急性栄養不良児への対応等、各種研修を実施しました。水浄化システム2基、貯水タンク9基、トイレ2基を設置し、保健センターにおける水・衛生環境も改善されています。貧困世帯が保健センターまでの交通費を賄えるよう、また緊急時に患者を迅速に搬送できるよう、村の有志が毎月少額を寄付し、資金が必要な場合に無利子で借りることができる「コミュニティ回転資金」を155村に設置しました。これらの活動により、母子保健サービスの質とアクセスは着実に向上しています。栄養不良の予防・改善活動には324人の子どもたちが参加しました。母親・保護者を対象に地元の食材を使った安くて栄養価の高い食事の作り方を指導し、体重測定による成長モニタリングを継続的に実施しています。

支援地域からの声

保健センターのサービスを頼りにしています

「かつては保健センターに行っても誰もおらず、体の具合が悪いのに長時間待たされることがありました。今は職員が常駐し、私たち利用者に親切に接してくれるようになりました。子どもの予防接種の種類や接種時期についても丁寧に教えてくれます。職員が村まで来て、子どもが下痢になったときの対応等、役立つ情報を伝えてくれる機会も増えました。今では、私だけでなく、家族や親戚も保健センターのサービスを信頼しています」



ソビアクちゃん(2歳)とお母さん

数値で見る成果

対象期間：事業開始(2017年3月)～2年次中間(2018年8月)

保健センターで治療を受けた重度急性栄養不良児

207人

栄養不良予防/改善活動に参加した栄養不良児

324人

保健センターに設置した水・衛生施設

13基

開発

緊急

水・食糧支援

事業実施国 スーダン、ソマリア、南スーダン、アフガニスタン、イラク、ヨルダン、ミャンマー、ルワンダ、バングラデシュ

連携機関 外務省 日本NGO連携無償資金協力／独立行政法人国際協力機構(JICA) 草の根技術協力／国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)／国連世界食糧計画(WFP)

皆さまからの募金額

■クリスマス募金	103,654,868円
■水と食糧のための募金	11,455,333円
■ラブ・ローフ募金	2,220,094円
■イラク国内避難民緊急支援募金	281,800円
■緊急食糧援助募金	650,870円

—南スーダンからの報告—

旧ワラップ州緊急食糧支援事業

支援の背景

内戦の影響で慢性的な食糧不足に

南スーダンでは、長期化する内戦の影響から、慢性的な食糧不足が続いています。とくに、事業地である旧ワラップ州では、運搬する機材や労働者の不足により他の地域に比べて食糧配布が不十分だったために、5歳未満児や妊娠中・授乳中の女性の栄養不良が深刻な問題となっています。また、子どもの教育が後回しになってしまい、学校に通っていない子どもが多いことも課題です。



栄養不良の子ども



収穫量を上げるための農業技術指導の様子



保健センターで栄養改善指導を受けたお母さんと子ども

収穫した落花生を手にする地域の人々

継続的に食糧が得られる環境へ

活動の成果

安全に食糧を手に行ける環境が整ってきました

南スーダンの旧ワラップ州(現・ゴグリアル州、トンジェ州、トゥイッチ州)において、44,020人(うち子ども23,463人)に食糧を配布しました。また、地域の人々が継続的に食料を得ることができるよう、収穫量を増やすための農業技術の指導も実施しました。また、特に5歳未満児や妊娠中・授乳中の女性の栄養不良改善のため、63のヘルスセンターで8,871人に食糧の配布と栄養改善の指導を実施しました。さらに、子どもたちの就学率を高めることを目的に、124の学校で学校給食を開始。その結果、家族が子どもたちの通学に前向きになり、6,335人の児童に給食が提供されるとともに、子どもたちが教育の機会を得ることができました。

数値で見る成果

食糧を受け取った人

44,020人
(うち、子ども23,463人)

食糧配布や栄養改善の指導が行われた保健センター

63カ所

食糧配布や栄養改善の指導を受けた5歳未満児および妊娠中・授乳中の女性

8,871人

給食が開始された学校

124校

学校給食が提供された児童

6,335人

支援地域からの声

家族の生活が変わりました

「皆さまからの支援は、私たち一家の生活を大きく変えました。食糧を得られるようになっただけでなく、農業技術の指導を通して穀物や野菜の栽培方法を学ぶことができました。これから、ナッツやモロコシ、野菜等を育てようと思っています。皆さまからの支援に感謝するとともに、神様のご加護を祈っています」



アジョクチャンさんと子どもたち

募金や他団体との連携による事業

ワールド・ビジョン・ジャパンは、危機においてもっとも弱い立場
国連機関、日本政府やその他の団体と連携して活動を行ってい

に置かれる子どもたちを守るため、
ます。

緊急人道支援 難民支援

事業実施国 ウガンダ、エチオピア、南スーダン、イラク、ヨルダン、ミャンマー

連携機関 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)
国連児童基金(UNICEF)



(キャンペーン情報はP18参照)

—エチオピアからの報告—

南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業

支援の背景

長期化する避難生活で 大きくなる不安

2013年12月に南スーダンで紛争が再発したことを受け、2018年11月時点で約225万人の人々が、紛争や食糧危機から逃れるため、国外に避難しました。周辺国の中で3番目に多くの難民が避難しているエチオピアでは、今でも42万人を超える人々が長期の避難生活を強いられています。いつ母国に帰還できるか見通しが立たず、人道支援も限られる中、難民の生活はより一層厳しくなっています。



難民キャンプの水汲み場の様子



新しくできた図書室で自習する生徒たち

新しい制服も支給されました

バスケットボールを楽しむ生徒たち

質の高い中等教育が徐々に拡大

活動の成果

生徒の社会性や自主性を養う支援も進んでいます

南スーダンからエチオピアに避難してきた難民が暮らすジョウィ難民キャンプで、中等教育支援(日本の中学3年から高校)を実施しています。2016年にジョウィ難民キャンプ中等学校を開校してから2年が経ち、9・10年生675人に中等教育を提供し、2018年9月に開始した3年目からは、エチオピアの国家統一試験である10年生修了試験に合格した11年生の受け入れも始まっています。また、生徒数の増加にともない、追加教室棟、図書室棟、自然科学実験室棟等を建設。質の高い中等教育カリキュラムを適切に提供できるよう学習環境を整備しました。さらに、保健、環境保護、平和教育、スポーツ等のテーマに分かれたクラブ活動を促進することで、生徒が社会性や自主性を養うことができるよう支援しました。

支援地域からの声

将来のために勉強を続けます

「ここでは、中等学校に通うことができとても幸せです! 努力すればするだけ結果が返ってくるので、将来のために頑張って勉強します」と、ジョウィ難民キャンプの生徒たちは笑顔を見せます。また、難民キャンプのコミュニティの人々からは、「ジョウィ難民キャンプ中等学校の生徒がロールモデルとなり、他の子どもたちに良い影響を与えている」との声が聞かれます。



ジョウィ難民キャンプの生徒たち

皆さまからの募金額

■夏期募金 **644,806円**

■難民支援募金 **69,104,747円**

■プロジェクト・サポーター ... **54,814,000円**
(P13の母子保健分含む)

■プロジェクト・サポーター
(難民支援) **7,500,500円**

■シリア緊急支援募金 **2,422,588円**

■ミャンマー難民危機
緊急支援募金 **922,126円**

—ヨルダンからの報告—

シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業

支援の背景

長期内戦で奪われた 学ぶ喜び

67万人以上のシリア難民を受け入れるヨルダンでは、難民の子どもたちに教育機会を提供できるよう、多くの公立学校が午前・午後の二部制で運営されています。しかし、授業時間が短縮され、教室が混雑し、一部の子どもは授業についていけない状況に。また、普段交流がないヨルダン人とシリア人の間にいじめが発生し、退学してしまう子どもも少なくありません。退学した子どもたちは、児童婚や児童労働等の危険にさらされています。



難民キャンプで暮らすシリア人の女の子

数値で見る成果

補習授業に参加した子ども **432人**

補習授業運営のための研修を受けた教職員 **20人**

学校の授業運営のための研修を受けた教職員 **96人**

研修に参加した保護者・コミュニティの代表者 **のべ425人**



補習授業の様子

補習授業の様子

遠足で訪れた博物館で係員の説明を熱心に聞く子どもたち

国籍を超えた交流が進んでいます

活動の成果

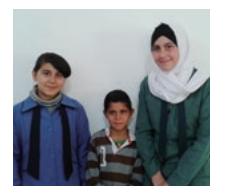
子どもたちが安心して学べる安全な地域をつくる

多くのシリア難民が暮らすヨルダン北部の都市イルビドで、学校での成績が向上しないシリア難民とヨルダン人の子どもたちを対象に補習授業を実施。研修を受けた教員による指導を通して、子どもたちはそれぞれの学習のつまずきを克服し、成績を向上させ、学習意欲を高めることができました。冬休みにはシリア難民とヨルダン人の子どもたちが一緒に遠足へ行き、国籍を超えて新しい友情を育むことができました。また、学校が子どもたちにとってより安全な場所となるよう、公立学校で働く教職員に、子どもを中心とした授業の進め方や体罰を使わない指導法についての研修を実施。保護者やコミュニティの代表者への研修では、子どもたちが作成した「通学路の危険マップ」をもとに安全な通学路について話し合い、警察官による見まわりを実現する等、子どもにとって安全な地域づくりのために具体的な行動を起こすことができました。

支援地域からの声

積極的になり、友だちもたくさんできました

「私は6年前にヨルダンにきました。シリアでは、紛争のために学校へ通うことができず、ヨルダンに来てから公立学校に通っています。勉強についていくのが大変だったこともあり、妹と一緒に補習授業に参加することに。先生が私の苦手な算数を丁寧に教えてくれたので、算数が好きになりました。またレクリエーション活動をきっかけに、大勢の友だちの前で話せるようになりました。今では私も妹もヨルダン人の友だちがたくさんいます。補習授業に参加したことで、自分が強くなったような気がします」



ファティマちゃん
(シリア人/13歳/右端の女の子)

緊急
人道支援

国内支援

福島子ども支援

災害や貧困の影響を受ける
子どもたちのために

NPO法人ビーンズふくしまとの協働で2016年4月から2年間実施した「福島子ども支援事業」。その成果として、国内の災害や貧困の影響を受ける子どもの支援に関する事例やノウハウを2つの冊子にまとめ、発行しました。WVJが今後実施する国内支援において、これらの冊子を活用し、関連他団体等にも紹介していく予定です。



西日本豪雨 緊急支援

日常生活を取り戻せるように



広島県坂町の小屋浦小学校で子どもの見守り活動を行う服部スタッフ

西日本を中心に、広い範囲で記録された「平成30年7月豪雨」の発生に伴い、被災した子どもたちの心のケアや日常生活を取り戻すサポートを行いました。刻々と変化する現地の状況やニーズを確認しながら、7月下旬に岡山県で、8月から9月初旬にかけて広島県で、現地の行政等が運営する小学生の居場所づくりに協力し、子どもたちが安全・安心に過ごせる空間づくりを支援したほか、被災した幼稚園・保育所・学校等の再開に必要な備品等の支援を行いました。

スタッフの声

日本の子どもの笑顔が増えるよう、
WVJの知見を活かした支援事業を進めています

日本でも、貧困・虐待・搾取等様々な形の暴力や権利侵害に加え、頻発した自然災害の影響を受ける多くの子どもたちがいます。この一年、厳しい環境に置かれながらも毎日を懸命に生きるたくさん子どもたちに出会いました。そのような子どもたちが安心して笑顔で過ごせる日が増えるよう、引き続き、WVJの国内外の活動経験・ノウハウを活かした支援活動を検討・実施してまいります。（高橋布美子スタッフ）



バスケットボール等の部活動用具を支援した高校の生徒と(中央が高橋スタッフ)

アド
ボカ
シー

アドボカシー



Take Back Future

難民の子どもを取り戻そう

子どもを取り巻く問題の根本的解決を目指し、市民社会や政府に訴えるアドボカシー。
「Take Back Future」キャンペーン*初年度の今年は、「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバルパートナーシップ(GPeVAC)」と連携して活動し、日本政府の政策変容を実現することができました。

子どものための2030アジェンダ：
ソリューションズ・サミット

日本の市民社会の代表としてサミットに参加した
柴田スタッフ(右から2番目)

日本政府が、子どもへの暴力撤廃を表明

SDGs(持続可能な開発目標)のひとつである「子どもに対する暴力撤廃」を目指した国際会議が、2018年2月、スウェーデンにて開催されました。WVJは、協働するNGOや国連機関等とともに日本政府へのアドボカシーを続けてきましたが、その成果として、日本政府は子どもへの暴力をなくすことに積極的に取り組むことを表明。加えて、「市民社会からの要請を受け、市民社会の代表とこの分野における議論を深めるためマルチステークホルダープラットフォーム(円卓会議)を設立する」と宣言したのです。子どもへの暴力撤廃に向けた大きな一歩となりました。

ハイレベル政治フォーラム



サイドイベント「平和でレジリエントな社会のためのパートナーシップ：子どもに対する暴力撤廃を通じて」登壇者一同(右から3番目が柴田スタッフ)

WVJのアドボカシーに世界が注目

2018年7月、ニューヨークの国連本部で「持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム(HLPF)」が開催されました。WVJは他団体とともにサイドイベントを開催。様々な国から政府代表部、市民社会、研究者等が多数参加し、平和でレジリエントな(回復力のある)社会実現のためには、子どもへの暴力撤廃が重要との認識が共有されたほか、日本における子どもへの暴力撤廃を目指すアドボカシーや日本の事例についても高い関心が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

*「Take Back Future」キャンペーン

—紛争・貧困で移動を強いられる子どもへの暴力撤廃を教育の力で—

WVJは、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築くことを目指し、「Take Back Future ～難民の子どもを取り戻そう～」キャンペーンを4年間の計画で開始しました。教育の力を通じて、紛争や貧困により移動を強いられる子どもが、暴力から守られ、健やかに成長し、暴力が繰り返されない未来を築いていけるようになることを目指し、①日本社会での関心喚起、②支援活動、③アドボカシー/政策提言に取り組みます。今年度の活動報告については、①をP22、②をP15-16、③は本ページにてご紹介します。



企業との連携

1,626社から、総額245,907,124円の支援をいただきました

企業の皆さまから、チャイルド・スポンサーシップ、特別プロジェクト、商品・サービスの売上からの寄付、社員募金と企業のマッチング募金、ボランティア等、様々な形で支援・協力をいただきました。また、西日本豪雨と北海道胆振東部地震等、被災した日本の子どもたちのための活動にも支援をいただいています。

2018年度支援事例紹介(一部)

特別プロジェクトによる支援

**武田薬品工業株式会社**

武田薬品工業が展開するグローバルCSRプログラムにより、「地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム」を支援いただいています。アフガニスタン、バングラデシュ、インド、ネパールの4カ国において、5年間で1,400人の地域医療従事者の能力強化、約50万人に保健医療に関する知識とサービス提供に取り組み、母子の「予防可能な死」を削減します。



保健ワーカーへのトレーニング

**SHIONOGI**

塩野義製薬株式会社

シオノギグループが販売する総合ビタミン剤「ポボン®」シリーズで日本のお母さんの健康を応援しながら、その売上げと社員からの寄付によりケニアでの母子保健プロジェクトを支援いただく「Mother to Mother SHIONOGI Project」。3年目となる2018年度は、初年度に建設した診療所での出産が大幅に増加。診療所までの道のりが遠い家庭にも、巡回診療により予防接種等を提供し、医療へのアクセス向上に大きく貢献しています。



乳児への予防接種

チャイルド・スポンサーシップ等を通して

**ヤマザキ**

山崎製パン株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通して、ルワンダとバングラデシュのチャイルドを支援くださっています。また、ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金により、ウガンダにおいて食糧の収穫が十分でない人々のための食糧確保・生計向上支援、タンザニアで安全な水が不足している地域の水衛生改善支援、平成30年7月西日本豪雨緊急支援活動を支援していただきました。



ヤマザキ「ラブ・ローフ」募金の目録を受け取るWVJ理事長の榊原(左)

**TAMANOHADA**

玉の肌石鹸株式会社

20年以上の長きにわたり世界の子どもたちを支援いただき、15カ国50人のチャイルド・スポンサーとして、子どもたちの成長を見守ってくださっています。今年度は団体設立30周年を記念し特別な寄付をいただき、支援者の皆さまへの感謝イベントを実施することができました。また、日本の多くの方々と温かいつながりを願った1万個の記念石鹸を贈呈いただきました。



タンザニアの子どもたち

**tutu,anna**


株式会社チュチュアンナ

チャイルド・スポンサーシップを通して、25人のチャイルドを支援いただいています。また今年度は、特別プロジェクトとしてミャンマーでの就学前教育センター建設支援を進めています。洪水が多い地域のため、高床式の就学前教育センターを建設し、子どもたちの安全な学習環境を整えています。




ミャンマーの子どもたち

商品・サービスの売上げからの寄付

**G+SPREAD**

ジースブレッド株式会社 若尾製菓株式会社

チャイルド・スポンサーシップを通じた支援に加え、「しあわせのカルテットクランチ」の売上げ、および、支援の輪を広げるために設立されたジースブレッド株式会社のお菓子「Happy Gift」「やさしさセット」の売上げからの寄付により、アジア・アフリカでの学校建設を支援くださっています。今年度はミャンマー、バングラデシュ、ケニアに続き、4校目となるスリランカでの学校建設が始まりました。



スリランカの子どもたち

支援・協力をいただいた企業(一部)

**住友化学**

住友化学株式会社

**東芝プラントシステム株式会社**

東芝プラントシステム株式会社

**TAISEI**

株式会社タイセイ

**PRECO**

プレコグループ

**UCHIYAMA HOLDINGS**
ウチヤマホールディングス グループ
東証一部上場(証券コード:6059)

株式会社ウチヤマホールディングス

**Rentracks**

株式会社レントラックス

**MITSUBISHI MOTORS**

三菱自動車工業株式会社

**日清製粉**

日清製粉株式会社

**Sincere**

株式会社シンシア

**food**
月島

月島食品工業株式会社

**オリエンタル酵母工業株式会社**

オリエンタル酵母工業株式会社

**MS&AD ゆにぞん Smile Club**

公益財団法人 日本手芸普及協会

**MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ**
公益財団法人日本手芸普及協会

**BLUMARE**

株式会社ブルマーレ

**アース製薬株式会社**

アース製薬株式会社

**Ajinomoto**

味の素株式会社

**YAHOO! JAPAN** ネット募金

ヤフー株式会社

**NTT DATA**

株式会社NTTデータ

**セブン&アイ HLDGS.**

セブン&アイ アベスコ基金

**キャリアインキュベーション株式会社**

株式会社isisホールディングス
株式会社東和キャスト
株式会社アプシエイト
株式会社えがお
豊紙器販売株式会社
株式会社マスパック

**ミヨシ油脂株式会社**


アキバ食品機械株式会社
株式会社ニッシンイクス
株式会社秋山住研
株式会社インプレザリオ
ハニカム・テクノリサーチ株式会社
トムソン・ロイター・ジャパン株式会社

**医療法人 ほしの内科クリニック**


株式会社エムズワークス
株式会社ディメンションデータジャパン
山下湘南夢クリニック
株式会社FreeLifeConsulting
三菱自動車STEP募金

各種団体との連携(一部)


1,265団体から、総額90,095,170円の支援が寄せられました

**ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会**

グレースコミュニティ
日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会
日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会
日本キリスト教団 渋谷教会
京都シャロームチャーチ

**ブレッシングチャーチインターナショナル**

学校法人捜真学院捜真小学校
学校法人梅光学院
学校法人立教女学院立教女学院中学校
学校法人ベタニヤ学園日進ベタニヤ幼稚園
学校法人博多学園博多高等学校

**特定非営利活動法人あおぞら**

気仙沼漁業協働組合
毎日新聞東京社会事業団

皆さまとともに

イベントやボランティア等、多くの方にワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)の活動に参加いただきました。

グローバル教育

世界への興味を育む取り組みに、5,789人が参加

「グローバル教育」は、日本の子どもたちや若者が、世界とつながるきっかけづくりとして行っています。スタッフが教育機関を訪問し世界の子どもたちについて紹介する講師派遣のほか、WVJの活動に興味を持つ学生を受け入れる事務所訪問を実施。今年度はこの取り組みに5,789人が参加しました。また、小学生や親子対象のサマースクール、アドベントカレンダー募金箱等親子で楽しく取り組めるプログラムも開催しました。

事務所訪問		講師派遣		サマースクール	
受入回数	20回	実施回数	44回	実施回数	3回
参加人数	351人	参加人数	5,438人	参加人数	87人



「オリンピック・パラリンピック教育」の一環として、国際理解の授業でお話しする機会が増えました

ワールド・ビジョン・カフェ

15カ所で開催、のべ1,057人が参加

支援地域での活動報告や参加者同士の交流の場として「ワールド・ビジョン・カフェ(WVカフェ)」を、全国15カ所で開催し、のべ1,057人が参加しました。2017年11月にはカンボジアから来日した現地スタッフが、支援の成果を報告。また、2018年9月にはルワンダ、フィリピン、バングラデシュからチャイルドや元チャイルドが来日し、チャイルド・スポンサーシップによる支援が自身と地域にもたらした変化を語ってくれました。



参加者が気軽に質問できる交流タイムもあります

ボランティア

364人の皆さまが、活動を支援してくださいました

事務所では1日約15人の方が、チャイルド・スポンサーシップの手紙交流に関わる事務や翻訳、WVJからのご案内の発送等、多種多様な業務を担ってくださっています。さらに近年は、支援地域やチャイルドの動画も編集していただいています。また、在宅での翻訳やWVJが実施するイベントでも、多くの協力をいただきました。



年に一度開催する「ボランティア感謝会」は、ボランティアの皆さまの交流の機会にもなっています

企業との協働

社会貢献活動として、社員のボランティア参加を促進している企業との協働も進めています。ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループでは、毎年6～7月にボランティア促進月間が設けられ、今年度は、63人の社員の皆さまに1,009通のチャイルドからの手紙を翻訳いただきました。9月には、フィリピンのチャイルド3人が日本本社を訪問し、手紙によって励まされ、支援を通じて学ぶ機会が得られたことに対する感謝を伝えました。



社会貢献委員会の皆さまとフィリピンのチャイルドたちの懇談のひと時

「Take Back Future」キャンペーン(P18参照)関連イベント



難民問題という地球規模の課題を、若者が身近なこととして考えるきっかけとなり、次世代の変革の担い手となることを願い、2つのイベントを開催しました。

「世界難民の日」特別シンポジウム

主催：(特非)ワールド・ビジョン・ジャパン/(公財)アジア福祉教育財団 難民事業本部
協力：国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)/ 国際基督教大学

「世界の難民危機と私たちにできること～“難民とともに生きる”を若者と考える～」と題したシンポジウムを、2018年6月に開催しました。2年目となる今回は、前回は上回る152人が参加。会場には高校生や大学生の姿も数多く見られるなか、難民問題に関わる若者、専門家、難民当事者等が、それぞれ取り組んでいる難民支援事業について報告しました。日本ができる支援を国内外から捉え、参加者一人ひとりが難民問題を身近なこととして考える機会となりました。



難民問題に関わる若者、専門家、難民当事者が集結しました

アイデア・コンペティション「未来ドラフト2018」

若い世代が難民問題に関心を寄せるきっかけとなることを願い、「SKETCH THE FUTURE 未来ドラフト2018 ～わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション」を開催しました。多くの南スーダン難民が生活するウガンダのビディビディ難民居住地に住む子どもたち・人々の中にある民族間・国籍間の対立や軋轢を緩和し、平和な未来を作るためのアイデアを募集したところ、全国の若者から210件のアイデアが寄せられました。9月の決勝大会では、一次審査を通過した8アイデアの発案者がプレゼンテーションを実施。112人が観覧・応援に駆けつけるなか、「遊び」を届けて平和につなげたいと訴えた「BidiBidi Caravan on the Move!(byビディビディキャラバン)」がグランプリに決まりました。決勝大会の審査員には、家入一真氏(株式会社CAMPFIRE代表取締役社長)、土井香苗氏(国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」日本代表)、福島治氏(福島デザイン主宰/グラフィックデザイナー)、宮川彬良氏(作曲家)、司会には塩田真弓氏(キャスター)という豪華な顔触れが揃い、若者たちのプレゼンテーションに熱心に耳を傾けていました。(グランプリ受賞アイデアは、2019年1月に現地で実現)



グランプリを受賞したチーム「ビディビディキャラバン」のプレゼンテーション



決勝大会の様子

設立30周年を迎えました！

これまでの歩みに感謝をこめて

1987年に日本での活動を開始したワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)は、2017年10月で満30歳を迎えました。30年前、およそ400人だったチャイルド・スポンサーは、現在、約50,000人、チャイルド・スポンサー以外を含めた支援者総数は約60,000人、また2,000以上もの企業・団体が支援の輪に参加しています。WVJは、2018年度(2017年10月～2018年9月)を30周年イヤーと位置づけ、「つながろう、子どもたちのために」をテーマに、WVJを支えてくださる方々に様々な形で感謝を伝えました。

ありがとう！
30th
Anniversary
つながろう、
子どもたちのために



30周年を機に広くご紹介することになったWVJテーマ曲「何かはきっとできる」の合唱でイベントは幕を閉じました

フィナーレイベントを開催

2018年9月17日、30周年イヤーを締めくくるイベントとして、「ありがとう！30周年“つながろう、子どもたちのために”」を開催し、500人を超える方々に参加いただきました。メインイベントには、ルワンダとフィリピンから計6人のチャイルド、バングラデシュから元チャイルドが来日し、日本の支援者へ感謝を伝えました。また、チャイルド・スポンサーで作曲家の宮川彬良氏による演奏と歌もあり、心温まる時間となりました。



ルワンダのチャイルドから「感謝の詩」を受け取る業務執行顧問の片山



素晴らしい歌声を披露してくれたフィリピンのチャイルド

キックオフイベントを開催

2017年10月13日、設立30周年を記念し「30周年記念特別企画キックオフイベント」を開催しました。約200人の参加者とともに親善大使のジュティ・オングさんと酒井美紀さん、理事で玉の肌石鹸株式会社 代表取締役会長の三木晴雄氏らが一同に会し、1万個の記念石鹸の贈呈、街頭での記念石鹸配布会等が行われました。贈呈された石鹸は、1年を通して、新しくチャイルド・スポンサーになってくださった方々等にプレゼントされました。



記念石鹸を寄付してくださった三木会長(中央)、親善大使のジュティ・オングさん(右)と酒井美紀さん(左)

設立記念感謝会を開催

2018年5月15日、WVJ設立当初に尽力した方々や、日ごろより特別な支援をいただいている方々、お世話になっている国際協力業界の方々等を招いて、「設立30周年記念感謝会」を開催しました。126人の方に参加いただき、記念講演会や記念式典を行いました。WVJのこれまでの歩みを振り返り、皆さまからの支援や協力に感謝するひと時となりました。



「WVJの働き」への感謝と提言」と題して記念講演を行った湊晶子理事

30周年記念誌の発行



WVJの活動の軌跡をまとめた記念誌「ワールド・ビジョン・ジャパン 30年の歩み」を発行しました。活動開始初期から現在までを、年表や支援事業一覧表、収入の推移等、豊富な資料で振り返ることができます。また、スタッフやボランティア、企業等関係者の声を通じて、WVJを支える多くの方の存在を改めて知ることができます。

2018年度 会計報告

正味財産増減の状況 2017年10月1日より2018年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減

経常収益			
1 受取寄付金	受取スポンサーシップ募金	3,112,921	
	受取その他募金・寄付金(1)	703,409	3,816,330
2 受取補助金等(2)	政府系機関からの受取補助金等	231,821	
	民間団体からの受取助成金等	492,526	
	国連機関からの受取委託金等	691,270	1,415,617
3 受取会費		610	
4 基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益		2,066	
経常収益合計(A)			5,234,623

経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	4,033,413	
	地域開発援助・委託援助事業費(※)	3,853,374	
	地域開発援助事業管理費(5)	180,039	
	人材派遣費(3)	35,617	
	啓発教育費	835,233	
	各種啓発教育費(4)	478,325	
	啓発教育事業管理費(5)	356,908	4,904,263
2 管理費(5)		95,407	
経常費用合計(B)			4,999,670

経常外収益			
1 固定資産売却益		29	
経常外収益合計(C)			29

当期一般正味財産増減額(A+C)-(B)			234,982
一般正味財産期首残高			959,485
一般正味財産期末残高(D)			1,194,467

II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額			-172,373
指定正味財産期首残高			764,061
指定正味財産期末残高(6)(E)			591,688

III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高(※※)(D)+(E)			1,786,155
---------------------	--	--	-----------

資産・負債の状況 2018年9月30日現在(単位:千円)

I. 資産の部

1 流動資産		537,970
	現金預金	494,274
	前払金	39,307
	立替金	1,128
	未収金	444
	仮払金	185
	その他流動資産	2,632
2 固定資産		1,521,562
	基本財産	50,000
	特定資産(6)	1,393,139
	補助金・助成金引当資産	290,259
	地域開発援助事業引当資産	684,558
	特定事業引当資産	301,429
	その他特定資産	116,893
	その他固定資産(7)	78,423
資産合計		2,059,532

II. 負債の部

1 流動負債		156,483
	未払金	127,801
	預り金	5,468
	賞与引当金	23,144
	未払法人税等	70
2 固定負債		116,894
	退職給付引当金	116,894
負債合計		273,377

III. 正味財産の部

1 指定正味財産		591,688
	(うち特定資産(6)への充当額)	(591,688)
2 一般正味財産		1,194,467
	(うち基本財産への充当額)	(50,000)
	(うち特定資産(6)への充当額)	(684,558)

正味財産合計		1,786,155
--------	--	-----------

負債及び正味財産合計		2,059,532
------------	--	-----------

上記会計報告に含まれる東日本大震災緊急復興支援事業にかかる正味財産増減の状況 2017年10月1日より2018年9月30日まで(単位:千円)

I. 一般正味財産増減

経常収益			
1 受取寄付金	受取その他募金・寄付金(日本国内より)		0
2 一般会計からの繰入金収入			0
経常収益合計(a)			0

経常費用			
1 事業費	地域開発援助事業費	7,933	
	地域開発援助事業費	4,971	
	地域開発援助事業管理費(5)	2,962	
	啓発教育費	0	
	各種啓発教育費(4)	0	
	啓発教育事業管理費	0	7,933
2 管理費			0
3 一般会計への繰出金支出(※※※)			2,558
経常費用合計(b)			10,491

当期一般正味財産増減額(a)-(b)			-10,491
一般正味財産期首残高			10,491
一般正味財産期末残高(c)			0

II. 指定正味財産増減

当期指定正味財産増減額			0
指定正味財産期首残高			0
指定正味財産期末残高(d)			0

III. 正味財産期末残高

正味財産期末残高(c)+(d)			0
-----------------	--	--	---

※地域開発援助・委託援助事業費の内訳(アドボカシー費1,117千円除く)については、P27-28の支援事業一覧をご覧ください。
※※正味財産の内訳は、資産・負債の部の状況のIII.正味財産の部を参照ください。

※※※東日本大震災に関する活動の終了に伴い、残金2,558千円については一般会計へ繰り入れ、国内災害のための緊急支援資金として、地域開発援助事業引当資産に取り置いています。

(1)～(7)については、次ページからの「会計報告の注記」を参照ください。特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは2018年度財務諸表等(2017年10月1日より2018年9月30日まで)について、以下の監査を受けています。

2018年11月12日 石川康彦公認会計士事務所による監査
2018年11月26日 監事による監査

【数字で見るワールド・ビジョン・ジャパン(P3-4)について】

●「資金の集め方」は、上記会計報告の「経常収益合計(A)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
チャイルド・スポンサーシップ募金:「受取スポンサーシップ募金」
その他募金・寄付金:「受取その他募金・寄付金」
補助金等:「受取補助金等」
その他:「受取会費」「基本財産運用益・特定資産運用益・雑収益」

●「資金の使い方」は、上記会計報告の「経常費用合計(B)」を100%とし、各項目には以下の科目を含みます。
現地事業活動のため:「地域開発援助事業費」「人材派遣費」
広報活動のため:「啓発教育費」
団体の運営・管理のため:「管理費」

会計報告の注記

●重要な会計方針の要約

- 1) 財務諸表の作成基準：特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパンは「公益法人会計基準」(公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議申合せ 平成16年10月14日)に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。
- 2) 固定資産の減価償却について：定額法による減価償却を実施し、償却額控除後の価額を表示しています。
- 3) 引当金の計上基準：
賞与引当金：職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しています。
退職給付引当金：職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。
- 4) 消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

(1) 受取その他募金・寄付金の内訳 (単位:千円)

児童保護募金	18,948
誕生日記念募金	27,995
危機にある子どもたちのための募金	15,009
ラブ・ロープ募金	16,129
うちラブ・ロープ募金	2,220
うちヤマザキ「ラブ・ロープ」募金	13,909
緊急援助募金	20,734
うちイラク国内避難民緊急支援募金	282
うち緊急食糧援助募金	651
うちシリア緊急支援募金	2,423
うちミャンマー難民危機緊急支援募金	922
うち西日本豪雨緊急支援募金	11,180
クリスマス募金	103,655
水と食糧のための募金	11,455
夏期募金	645
難民支援募金	69,105
プロジェクト・サポーター	54,814
プロジェクト・サポーター(難民支援)	7,500
ラオスの子どもたちのための募金	61,434
特別プロジェクト募金	183,958
物資の受入	6,502
その他の募金・寄付金	106,126
受取その他募金・寄付金合計	703,409

(3) 人材派遣費

人材派遣費とは、地域開発援助事業等の事前調査・視察・調整のための短期調整員・駐在員・海外契約スタッフ・外部専門家派遣に関わる費用です。

(4) 各種啓発教育費の内訳 (単位:千円)

	啓発教育費 合計	うち 東日本分
広告費	373,324	0
各種広告費	329,751	
パンフレット等印刷費・通信運搬費他	43,573	
広報費	25,033	0
年次報告書(2017年度版)制作・送達費等	3,342	
団体ホームページ制作費等	7,211	
その他の広報活動費	14,480	
ニュースレター制作・送達費等	29,586	0
チャイルド・スポンサーおよび寄付者への連絡物制作・送達費等	44,650	0
その他啓発費等	5,732	0
グローバル教育活動・学校訪問等の費用	682	
ラブ・ロープ募金箱の製作・運搬費等	1,548	
活動報告会	1,790	
その他の啓発活動費	1,712	
各種啓発教育費合計	478,325	0

(2) 受取補助金等の内訳 (単位:千円)

政府系機関からの受取補助金等	231,821
外務省 日本NGO連携無償資金協力	212,880
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(2年次)	27,151
エチオピア/アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(3年次)	17,306
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途30,901千円保有しています。)	
バングラデシュ/シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(2年次)	26,077
バングラデシュ/シレット県ゴワインガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(3年次)	31,904
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途31,347千円保有しています。)	
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(1年次)	8,739
ネパール/ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(2年次)	53,777
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途26,200千円保有しています。)	
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業(1年次)	23,817
カンボジア/タケオ州における母子健康改善事業(2年次)	24,109
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途24,145千円保有しています。)	
外務省NGO活動環境整備支援事業 NGOインター ン・プログラム(平成30年度)	1,648
独立行政法人国際協力機構 草の根技術協力事業	17,293
ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト	17,293
民間団体からの受取助成金等	492,526
特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム	449,100
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業1	14,155
南スーダン/タンブラ郡教育システムにおけるレジリエンス強化事業2	90,438
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途6,173千円保有しています。)	
南スーダン/ワラップ州飢饉対応における栄養支援事業1	3,094
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途53千円保有しています。)	
南スーダン/ワラップ州食糧危機対応における栄養支援事業2	65,566
アフガニスタン/ヘラート州及び周辺地域における保健・医療従事者養成のための環境整備事業3	103
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業1	8
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業3	4,535
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業4	33,220
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途387千円保有しています。)	
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人の子どもたちへの教育支援事業5	19,003
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途36,677千円保有しています。)	
ヨルダン/シリア難民およびヨルダン人への緊急越冬支援	4,060
エチオピア南スーダン・難民キャンプでの教育・水衛生環境整備事業	1,458
エチオピア南スーダン・難民キャンプでの教育環境整備事業 第2期	110,120
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途4,639千円保有しています。)	
エチオピア・ガンベラ州ジョウィ難民キャンプにおける中等教育環境整備事業	2,452
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途57,145千円保有しています。)	
バングラデシュへの避難民に対する緊急物資支援事業	24,801
ウガンダ南スーダン難民居住地での教育環境および子どもの保護環境改善事業	91,533
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途54,511千円保有しています。)	
イラク/モスル西部の脆弱な帰還民、避難民およびホストコミュニティの子どもたちへの教育支援事業	33,192
(当該事業に関しては、指定正味財産・特定資産として別途18,081千円保有しています。)	

公益財団法人ウェスレー財団	661
「子どものための心理的応急処置(サイコロジカル・ファースト・エイド:PFA)」研修支援金	661
味の素株式会社	37,253
SMS-RUTF Efficacy Validation Project	37,253
パナソニック株式会社	701
「無電化ソリューション」現地調査	701
World Vision International	4,811
Lead management capability development Project	4,811
国際機関からの受取委託金等	691,270
国連児童基金(UNICEF)	44,353
国連開発計画(UNDP)	17,750
国連世界食糧計画(WFP)	359,808
うち、受取委託物品	261,436
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	49,389
南スーダン保健合同基金	219,970
受取補助金等合計	1,415,617

マイナス表記となっている収入は、昨年度以前に受け取った補助金等を精算した際の返金額です。

(5) 事業管理費等の内訳、および集計 (単位:千円)

事務局の運営に関わる事業管理費等は、以下の3つの科目に分けて計上しています。

地域開発援助事業管理費(以下、地開管理費)：地域開発援助事業に直接かかわる国内管理費
啓発教育事業管理費(以下、啓発管理費)：啓発教育事業に直接かかわる国内管理費
管理費(以下、管理費)：その他一般の国内管理費

各管理費の内訳、および内訳ごとの集計は以下の通りです。

	事業管理費等合計	地開管理費	うち東日本分	啓発管理費	管理費
人件費等	396,093	132,207	2,263	196,879	67,007
会議費	6,707	1,392	23	1,136	4,179
旅費交通費	16,959	5,889	112	8,379	2,691
賃借料	68,620	22,857	417	34,433	11,330
支払手数料	93,935	158	1	91,881	1,896
その他の管理費	50,040	17,536	146	24,200	8,304
合計	632,354	180,039	2,962	356,908	95,407

人件費等：職員等の給与手当・法定福利費等。なお2018年9月30日現在、職員79名、嘱託・アルバイト3名が在職
会議費：ワールド・ビジョン・パートナーシップ内等の国際会議出席のための渡航費用、その他国内会議費用
旅費交通費：職員の通勤費、事務ボランティアの方の事務所までの交通費等
賃借料：事務所家賃
支払手数料：入金にかかる口座引落およびクレジット決済等の手数料、銀行・郵便局等金融機関の振込手数料等

(6) 特定資産の内訳 (単位:千円)

補助金・助成金引当資産(指定正味財産)の内訳	
NGO連携無償助成金エチオピア3年次事業分	30,901
NGO連携無償助成金バングラデシュ3年次事業分	31,347
NGO連携無償助成金ネパール2年次事業分	26,200
NGO連携無償助成金カンボジア2年次事業分	24,145
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンタンブラ郡第2期事業分	6,173
ジャパン・プラットフォーム助成金南スーダンワラップ州第1期事業分	53
ジャパン・プラットフォーム助成金ヨルダン第4期事業分	387
ジャパン・プラットフォーム助成金ヨルダン第5期事業分	36,677
ジャパン・プラットフォーム助成金エチオピア2第2期事業分	4,639
ジャパン・プラットフォーム助成金エチオピア2第3期事業分	57,145
ジャパン・プラットフォーム助成金ウガンダ1期事業分	54,511
ジャパン・プラットフォーム助成金イラク1期事業分	18,081
補助金・助成金引当資産合計	290,259
当年度までに受領した上記事業にかかる補助金のうち、2019年度以降に支出を予定している金額です。	

地域開発援助事業引当資産の内訳

スポンサーシップ地域開発援助事業引当資産(7)	504,000
一般募金による地域開発援助事業引当資産(1)	168,000
緊急援助事業引当資産(7)	10,000
国内災害緊急援助事業引当資産(1)	2,558
地域開発援助事業引当資産合計	684,558

(7)チャイルド・スポンサーシップによる事業(以下SP事業とする)に使途を特定した資産であり、2019年度以降のSP事業、為替相場変動によるSP事業への影響回避のための準備金、SP事業における緊急事態(緊急医療・自然災害・火災等)対応への準備金として、支出を予定しています。
(1)SP事業以外の地域開発援助事業(緊急・復興支援事業含む)に使途を特定した資産であり、2019年度以降に支出を予定しています。
(7)大規模な自然災害や紛争の発生時の、初動の緊急支援活動のための準備金です。
(1)国内災害のための緊急支援活動に使途を特定した資産です。

特定事業引当資産の内訳

地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム3年次以降事業分	301,429
特定事業引当資産合計	301,429

その他特定資産の内訳

退職給付引当資産	116,893
その他特定資産合計	116,893

(7) その他の固定資産の内訳 (単位:千円)

建物附属設備	7,274
什器備品	12,430
ソフトウェア	8,434
電話加入権	373
敷金	49,912
その他の固定資産 合計	78,423

(8) 保証債務等

当団体は保証債務等の責は一切負っておりません。

(9) 為替レートについて

ワールド・ビジョン・パートナーシップでは、現地の地域開発援助事業等は米ドルにて予算管理を行っており、為替予約等によって、為替相場の変動による事業への影響をできるだけ抑えるよう努めています。2018年度(2017年10月1日~2018年9月30日)の地域開発援助事業費の総平均レートは、1米ドル=106.05円でした。

監査と情報公開

ワールド・ビジョン・ジャパンでは、会計および業務全体に関して2名の監事による内部監査とともに、外部の独立した公認会計士に依頼して会計監査を受けています。その会計報告の概要は、年次報告書やホームページで公開しています。また、特定非営利活動法人および認定NPO法人としての事業報告書等を、所轄庁である東京都に提出し、情報公開を行っています。ワールド・ビジョン全体としては、内部に監査機関を設置し、各国のすべての事務所が最低でも3~5年に一度、事務所全体の業務監査と会計監査を受けることになっています。もし監査の過程で疑義等が発生した場合は、その都度適切な対応を行います。

2018年度 支援事業一覧

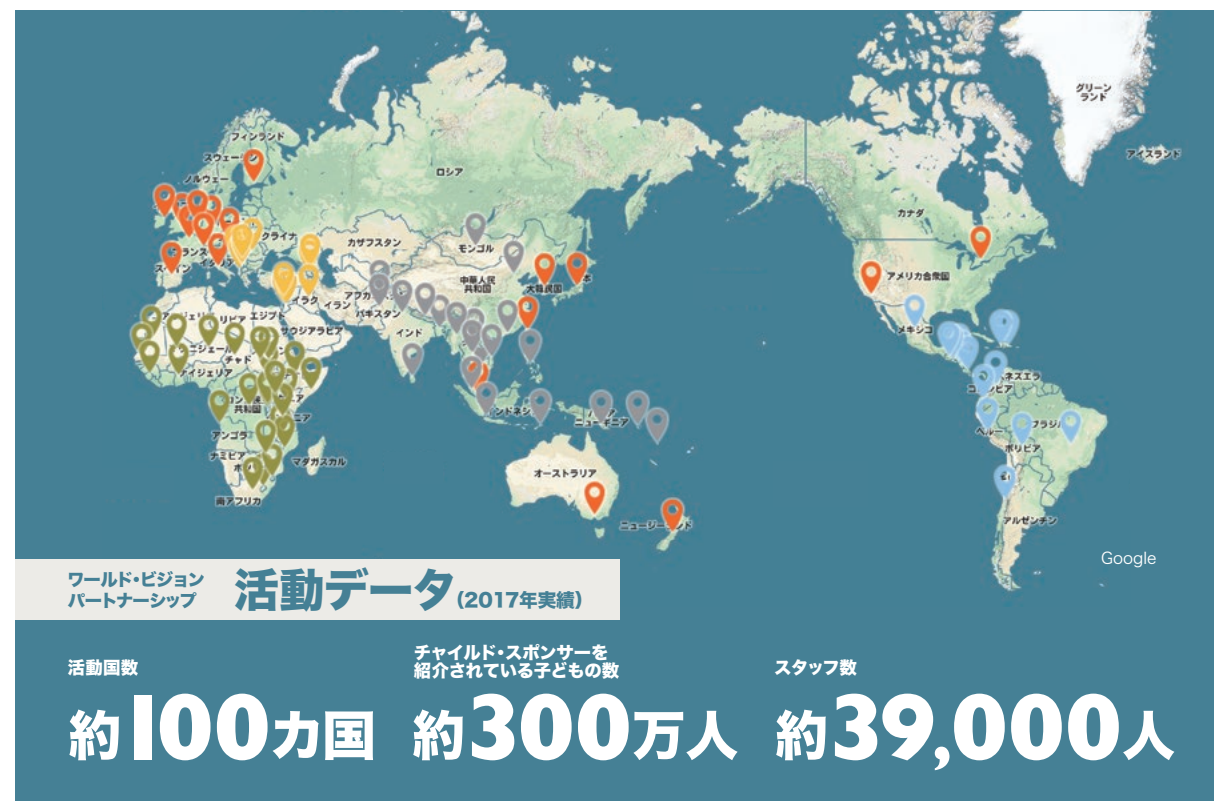
	国名	プロジェクト名	チャイルド・スポンサー シップによる支援額	その他募金に よる支援額	助成金・委託金に よる支援額	合計	受益者数 (人)	チャイルド数 (人)
海外支援								
東 ア ジ ア	カンボジア	ポニャー・ルウ地域開発プログラム	28,707,393			28,707,393	20,000	1,000
		トモ・プオ地域開発プログラム	28,308,830			28,308,830	8,015	1,100
		ボレイ・チュルサール地域開発プログラム	45,149,651			45,149,651	27,106	1,800
		タケオ州における母子健康改善事業(1年次)		6,647,606	20,044,603	A	26,692,209	239,656
		タケオ州における母子健康改善事業(2年次)		6,077,949	22,500,423	A	28,578,372	239,656
	ラオス	サンブル保健センター新築支援事業		3,283,885			3,283,885	7,947
		ポニャー・ルウ地域開発プログラム 保健栄養事業(追加支援)		2,502,951			2,502,951	1,086
		旧バランサイ地域開発プログラム		15,568,846			15,568,846	10,000
		旧タバントン地域開発プログラム		15,568,845			15,568,845	12,000
		モンゴル	ハイラアスト地域開発プログラム	50,021,142			50,021,142	52,442
東 ア フリ カ	ミャンマー	バヤン・ウルギー地域開発プログラム	54,408,962			54,408,962	18,000	2,200
		タバウン地域開発プログラム	31,429,658			31,429,658	30,000	1,300
		カチン州におけるIDPへの食糧支援事業 ※カチン州ウエインモー、チブウェ、およびブタオ・タウンシップ		184,854	8,509,390	C	8,694,244	
		カヤー州におけるフード・フォー・アセットを通じた地域開発支援事業		1,575,671	10,161,417	C	11,737,088	776
		ラカイン州における食糧配布事業および栄養支援事業		1,037,923	852,204	C	1,890,127	41,300
	タイ	ラカイン州における食糧配布事業および栄養支援事業(上記継続事業)			11,436,452	物		
		マクタイ管区におけるキャッシュ・フォー・アセットを通じたレジリエンス強化事業		1,381,579	2,004,632	C	3,386,211	69,181
		ヤンゴン管区における乳幼児および妊産婦への栄養支援事業		296,535		C	296,535	5,825
		ミャンマー・国セイン・チー村小学校建築支援事業		3,691,892			3,691,892	256
		幼稚園・学校への雨水タンク設置支援事業		2,288,932			2,288,932	4,700
南 ア ジ ア	ベトナム	トゥンワ地域開発プログラム	24,071,303			24,071,303	14,500	1,000
		タブラヤ地域開発プログラム	18,083,006			18,083,006	36,285	800
		飲料水給水システム整備支援事業		3,544,196			3,544,196	587
		パンエン地域開発プログラム	31,237,331			31,237,331	12,000	1,200
		チャンエン地域開発プログラム	27,636,362			27,636,362	18,000	1,100
	インド	ムオンチャ地域開発プログラム	26,074,495			26,074,495	11,000	1,000
		トアンザオ地域開発プログラム	27,315,330			27,315,330	13,900	1,100
		ダバック地域開発プログラム	1,364,869			1,364,869	12,000	
		ムオンチャ郡母子保健事業(追加支援)		2,502,951			2,502,951	12,000
		ティエンビエン省 幼稚園分園の調理場建設支援事業		2,215,135			2,215,135	91
東 ア フリ カ	ハンガラデシュ	ハンガイ中学校建設支援事業		738,378			738,378	112
		カルマカンダ地域開発プログラム	35,141,997			35,141,997	57,300	1,300
		フルバリア地域開発プログラム	63,494,836			63,494,836	165,301	2,500
		ピロル地域開発プログラム	54,629,729			54,629,729	138,822	2,200
		ビルゴンジ地域開発プログラム	47,921,009			47,921,009	73,600	1,900
	インドネシア	シレット県ゴウィンガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(2年次)		4,180,921	20,972,206	A	25,153,127	90,000
		シレット県ゴウィンガット郡 コミュニティと取り組む水・衛生環境改善事業(3年次)		4,552,487	29,011,614	A	33,564,101	90,000
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(ハンガラデシュ)		15,962,737			15,962,737	205,020
		ハンガラデシュへの避難民に対する緊急物資支援事業		1,883,776	23,705,192	B	25,588,968	34,000
		ビルゴンジ郡中等学校衛生環境改善支援事業		2,215,135			2,215,135	520
東 ア フリ カ	インドネシア	ミャンマー・難民の子どもおよび妊婦中・授乳中の母親に対する栄養支援事業		674,650	1,698,944	C	2,373,594	20,961
		サイダベット地域開発プログラム	27,899,370			27,899,370	42,000	1,100
		カラウ地域開発プログラム	31,473,873			31,473,873	40,000	1,300
		ブドゥコッタイ地域開発プログラム	33,130,502			33,130,502	40,000	1,300
		カンドゥックル地域開発プログラム	13,243,794			13,243,794	35,903	500
	インドネシア	地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(インド)		17,915,278			17,915,278	189,200
		アンガンワディ・センター整備支援事業		2,215,135			2,215,135	100
		トウナ地域開発プログラム	22,387,065			22,387,065	36,279	800
		インドネシア共和国 西マングライ県 レダン小学校建設支援事業		2,879,614			2,879,614	130
		西ドティ地域開発プログラム	34,471,499			34,471,499	15,811	1,400
東 ア フリ カ	ネパール	ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(1年次)		4,657,852	6,032,092	A	10,689,944	25,255
		ドティ郡学校・コミュニティ防災事業(2年次)		15,782,275	51,891,527	A	67,673,802	25,255
		地域ヘルスワーカーの能力強化を通じた母子保健プログラム支援事業(ネパール)		37,287,176			37,287,176	31,163
		西ドティADP 地域保健センター建て替えおよび機材提供事業		5,676,608			5,676,608	3,383
		レイテ地域開発プログラム	30,445,810			30,445,810	146,434	1,200
	フィリピン	サマール地域開発プログラム	38,057,212			38,057,212	34,963	1,500
		サマール州カマイシ小学校教室増設支援事業		2,218,041			2,218,041	177
		フィリピン高校への通学路整備支援事業		3,691,788			3,691,788	500
		リディマリヤグダ地域開発プログラム	19,180,817			19,180,817	31,503	800
		リディマリヤグダ郡 就学前教育センター(幼稚園)支援事業		2,473,474			2,473,474	75
東 ア フリ カ	スリランカ	リディマリヤグダ郡 障がいのある子どものための特別支援学級整備支援事業		3,617,992			3,617,992	24
	エチオピア	ゴンダール・ズリア地域開発プログラム	59,074,425			59,074,425	115,000	2,400
		テラ地域開発プログラム	59,074,425			59,074,425	100,000	2,400
		エチオピア南スーダン難民キャンプでの教育環境整備事業 第2期		7,660,764	100,625,871	B	108,286,635	58,000
		エチオピア・ガンベラ州ジョウィ難民キャンプにおける中等教育環境整備事業		218,437	1,559,637	B	1,778,074	61,190
東 ア フリ カ	ケニア	アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(2年次)		2,256,833	17,974,344	A	20,231,177	90,000
		アムハラ州妊産婦・新生児の健康改善事業(3年次)		7,648,014	12,892,880	A	20,540,894	90,000
		(誕生日記念募金による)総合的な子どもの水衛生と栄養改善プロジェクト		9,341,307			9,341,307	79,700
		イラムマタク地域開発プログラム	32,383,198			32,383,198	15,000	1,300
		キアムボゴ地域開発プログラム	22,668,238			22,668,238	21,712	900
	ルワンダ	Mother to Motherプロジェクト(シオノギ製品で日本の母を元気にしながら、ケニアの母も健康に！)によるケニア共和国における母子保健支援事業(3年次)		22,271,082			22,271,082	14,612
		イシノソ小学校雨水供給施設整備支援事業		2,288,932			2,288,932	500
		キラムルジ地域開発プログラム	68,547,964			68,547,964	21,674	2,700
		グウィザ地域開発プログラム	62,447,469			62,447,469	28,903	2,500
		ルワンダ共和国東部州における小規模生産者グループの経済活動及びマネジメント向上支援プロジェクト		11,671,962	12,942,170	G	24,614,132	1,600
東 ア フリ カ	ソマリア	ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養支援事業		946,690	2,371,984	C	9,881,028	137,341
					6,562,354	物		
				2,023,950	1,134,253	C		
					8,615,884	物		
		ソマリアの脆弱な世帯に対する栄養支援事業(第2期)						
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							
	ソマリア							
東 ア フリ カ	ソマリア							

ワールド・ビジョンについて

ワールド・ビジョンは、約100カ国で活動する世界最大規模の国際NGOです

ワールド・ビジョンの始まり

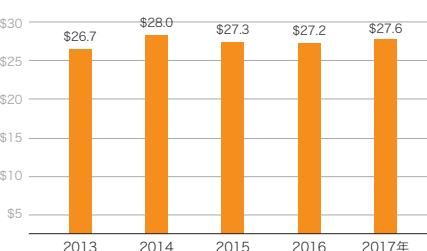
ワールド・ビジョンの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。第二次世界大戦後、混乱をきわめた中国に渡ったボブ・ピアスは、「すべての人々に“何もかも”はできなくとも、誰かに“何か”はきっとできる」と考えるようになりました。中国で出会った一人の少女の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950年9月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたち、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まり、現在は世界の子どもたちのために、「開発援助」「緊急人道支援」「アドボカシー」の3つを柱に、約100カ国で活動しています。



組織と運営

ワールド・ビジョン・パートナーシップにおいて、日本を含む支援国では、各国で独自に総会・理事会を持ち、その国のワールド・ビジョンの運営に関する責任を負っています。通常は、総会・理事会のもとに事務局が置かれ、実際の運営を行います。最終的な責任はその国の総会・理事会が持っています。ワールド・ビジョン全体に関わる方針や事業計画、予算等については、各地域から選出された理事で構成される国際理事会で決定されます。このほか国際理事会では、新たに活動を始める国や活動を終了する国の承認も行います。国際理事会のもと、ワールド・ビジョン・パートナーシップ事務局が、各国・各地域間の調整業務や技術的サポートを行っています。

ワールド・ビジョン全体の収入推移(億米ドル)



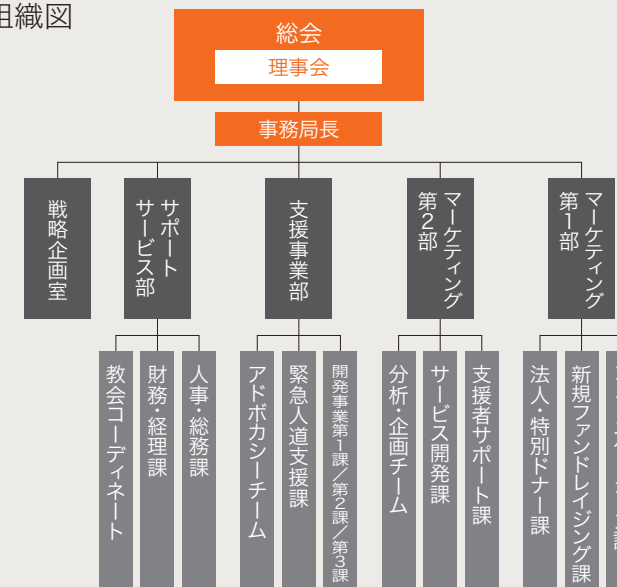
ワールド・ビジョン・ジャパンについて

ワールド・ビジョンは1960年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設等を通じて支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987年10月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。

1999年に特定非営利活動法人の認証を得、法人格を持つ民間援助機関としてその歩みを進めています。2002年5月、国税庁より「認定NPO法人」に認定され、これ以降、当団体への寄付金は税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後のNPO法改正を受け、2014年8月には東京都より改めて認定されています。



組織図



役員・親善大使 (全員無給です)

理事長	榊原 寛 (お茶の水クリスチャンセンター副理事長)
副理事長	飯島延浩 (山崎製パン株式会社代表取締役社長)
理事	湊 晶子 (広島女学院大学院長・学長)
理事	新川代利子 (ウェスレアン・ホーリネス神学院助教授)
理事	小西孝蔵 (前農林中央金庫常任監事)
理事	村上宣道 (一般財団法人太平洋放送協会名誉会長)
理事	樋口紀子 (梅光学院学院長・学長)
監事	峯野龍弘 (ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会牧師)
監事	中島秀一 (日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会牧師)

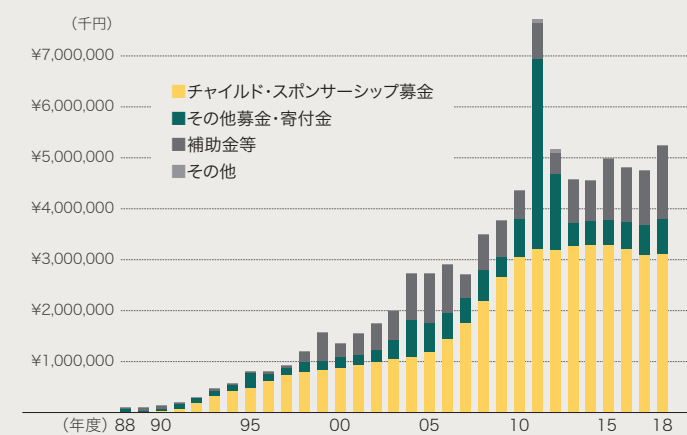
親善大使	ジュディ・オング (歌手・女優・木版画家)
親善大使	酒井美紀 (女優)

事務局長・業務執行顧問

事務局長	木内真理子
業務執行顧問	片山信彦 (前特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン事務局長)

2019年2月1日現在

30年間の収入の推移



※上記収入額は、2006年度までは収支計算書、2007年度からは正味財産増減計算書に基づいています(公益法人会計基準改正に伴い)

